厳しい財政状況の中で

平成30年度　一般会計　86億9526万円
特別会計　74億5749万円

平成30年度 決算認定

松本町政の2期目 船出の評価は？

平成30年5月に執行された小川町長選挙により、再び松本町長が「町の舵取り」を担うことになりました。財政構造の硬直化が進む中、町は予算編成時に①まちの魅力向上 ②子ども・子育て施策の充実　③安心・安全の推進　を重点分野としました。事業はどのように実施され、活かされてきたのか。また、課題はないのか。このコーナーでは、数字を使って分かりやすくまとめてみました。ぜひ、ご一読を！

※ 入 歳入　出 歳出　　※（○○→○○）は前年度との比較です

評価

- 入 ふるさと納税
（寄附額311万円→504万円）
- 出 町民会館と中央公民館の複合化
（4月1日リニューアルオープン）
- 出 住の魅力PR事業
（ツアー参加者4組13人）
- 出 食の魅力PR事業
（地場食材を使用した新メニュー開発）
- 出 いきいき地域活動補助金
（新たに25地区で活用）
- 出 ココット始動
（年間利用人数のべ1万2586人）
- 出 放課後子供教室
（小川小学校区に増設）
- 出 100歳体操
（26地区25会場で実施）
- 出 デマンドタクシー
（登録者数5409人）※令和元年6月末現在
- 出 おがわ型農業プロモーション
（認証件数47件）
- 出 企業誘致推進嘱託員
（企業訪問47件）

平成30年4月1日～平成31年3月31日に町が行った事業の評価と課題だよ！

ふるさと納税
返礼品が13種類から28種類に拡充

全国から小川町を応援していただきました。日本酒とワインが大人気。「地酒で乾杯条例」も届くといいな。

次代を担うレガシー創出事業
国際性を身につけグローバル化に対応する教育の推進

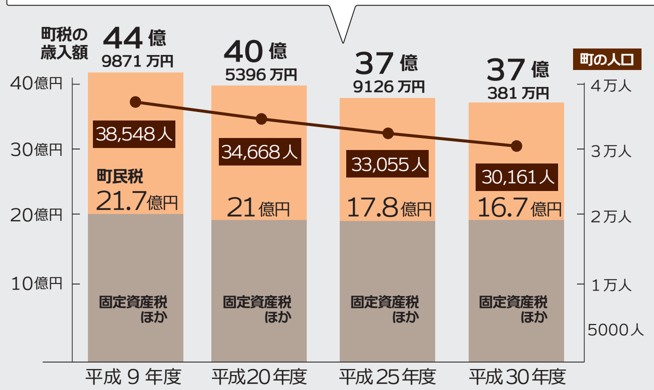
ラグビーワールドカップ観戦は、夢と希望に挑戦する生徒を育てる、またとない教育の機会へつながりました。

おがわん
農家の取り組みが一目でわかるロゴシール

おがわんプロジェクトでは、農家の取り組み、目指す農業を宣言してもらい「農家認証」をしています。

課題

人口数と町税収入の推移をあらわした相関グラフ。平成9年の3万8,548人をピークに、減少と減収が見てとれます。町民税は「稼ぐ力」をあらわすもの。「稼ぐ力」×「人口」を本気で対策しないと！



- 入 町税の減収
（37億3417万円→37億381万円）
- 入 人口減少
（3万923人→3万161人）

道の駅 機能診断
54万円をかけて観光拠点の診断を行った

立地に関する評価は高いものの「施設の老朽化、建物配置の影響で出入り口が目立たないこと等から、立ち寄り率が低くなっている」との診断でした。観光の核として、有効活用と施設機能の充実を。

- 出 パトリアおがわ
（お風呂・プールの老朽化）
- 出 空き店舗等活用補助金
（2店舗への補助、予算の約50%（120万円）が未活用）

監査委員の意見

経営感覚を持った行政運営を

代表監査　松本治雄

当町の財政状況は依然として厳しい状況にあり、一般会計における実質単年度収支は8年連続の赤字となっており、これを補うため、財政調整基金を1億3468万円を取り崩した財政運営となっている。

歳入では、町税で税収の急速な改善を期待できる要因はなく、楽観視することはできない状況である。新たな企業誘致の推進等による一層の歳入の確保に努めるべきである。また、事業の実施に当たっては、国や県等の補助金の積極的な活用により、財源の確保に努めるべきである。

歳出では、事業の必要性、将来性、経済効果及び費用対効果を見極め、補助金、地方債及びPPP・PFI[1]等の活力による自己財源の確保が図れる状況を確認の上、事業を展開することが必要である。職員は、常にコスト意識を持った歳出削減に努めるべきだが、一方で、行政サービスに対するコストを明確にするとともに、人口減少による歳入減を公共サービスの質や量に転嫁しない工夫などの経営感覚を持った行政運営が求められる。（決算審査意見書より抜粋）

解説 PPP・PFI[1]
公共施設の建設、維持管理、運営などを民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行なう手法。PFIは数あるPPP手法の一つである。